高知縣西南部地区の恙虫の種類 とその季節的消長

国 友 文 夫

Kunitomo, F.: Species and seasonal prevalence of the trombiculid mites in Kochi Prefecture (Hatagun)

高知県下の恙虫病発生地、幡多郡白田川村に於て 1953 年以来年間を通じて部落、田畠、山林の三特定地区内で、併その他 543 頭を捕え、寺邑氏法で恙虫 35,682 匹を採集し、恙虫の種類と季節的消長を明かにした。同地方の恙虫及びその棲息割合は *T. kitasatoi* (65.4%), *T. fuji* (14.6%), *Gahrl. sad.* (5.5%), *T. murotoensis* (3.3%), *T. kochiensis* (3.2%), *T. mitamurai* (2.6%), *T. miyajimai* (1.1%), *T. kansai* (1.1%), *T. kuroshio* (1.0%), *T. tosa* (0.8%), *T. tamiyai* (0.6%), *T. ichikawai* (0.1%), その他僅かの *T. pallida*, *T. miyairi*, *Walchia ogatai*, *T. yasukai* が見られ、山林に最も多く、次で田畠、部落の順である。地区別には部落では *T. tosa* は年中見られ (8 月) 一括弧内は最高発生月を示す。以下同様—*T. kitasatoi* は 10→6 月 (12 月)、田畠では *T. kitasatoi* は年中棲息し (12 月)、*T. fuji* は 10→6 月 (12, 2 月)、*T. miyajimai* は 11→5 月 (12 月)、*Gahrl. sad.* は年中見られ (1, 2 月)、*T. kochiensis* は 11→4 月 (1, 2 月)、*T. murotoensis* は 7→4 月 (8, 12 月)、*T. tamiyai* は 12→4 月 (2 月)、*T. tosa*, *T. kuroshio* は年中見られる (両者とも 11 月)。

山林では夏季でも恙虫は棲息し、*T. kitasatoi* は年中見られ (12 月)、*T. fuji* は 9→5 月 (1 月次で 4 月)、*T. mitamurai* は 1→4 月 (1 月)、*Gahrl. sad.* は 8→6 月 (12 月)、*T. kochiensis* は 12→5 月 (1 月)、*T. murotoensis* は年中見られる。*T. kansai* も殆ど年中見られ (4 月)、*T. kuroshio* は年中見られ (9 月)、*T. miyajimai* は 10→4 月に発生する (11 月)。これら恙虫各種の季節的消長グラフと同地方の古来『ホッパン』と称されている古典的恙虫病以外に、毎年秋口から翌春にかけて同地方に散発する原因不明の発疹性熱性疾患 (仮称：幡東熱) の患者発生率を示すグラフと比較するとき、やゝ一致するものは部落内に於ける *T. tosa* の消長曲線のみである。尚秋田県下に棲息する恙虫 (寺邑誠祐, 1954) と高知県下の恙虫のうち同種のものでその季節的消長を比較できるものは、現在のところ *T. tamiyai*, *T. fuji*, *Gahrl. sad.* であるが、何れも最高発生月が 1~3 カ月高知県の恙虫の方が遅れていることは、両地方

の年間の平均気温を比較するとき、各種の恙虫の発生には各々最適気温が或程度定まっていることが明かである。
(高知県)

四国の恙虫 (3)

山 口 富 雄

Yamaguchi, T.: On the Tsutsugamushi in Shikoku Island (3)

1953 年 2 月から、1955 年初頭までの 2 カ年間、徳島県、香川県を主とし、高知県西南部及び愛媛県の一部を加えた四国と、兵庫県淡路島において、60 カ所、延 156 回の調査を行い、アカネズミ 387 頭、ドブネズミ 267 頭、ヒミズモグラ 18 頭及びモグラ 1 頭、計 673 頭を捕獲した。これらに附着していた恙虫は、4 属 19 種、総計 18,730 疋で、多くとれたものから *kitasatoi*, *fuji*, *pallida*, *G. saduski*, *tosa*, *kochiensis*, *kuroshio*, *ichikawai*, *murotoensis*, *E. alpina*, *miyajimai*, *mitamurai*, *kansai*, *japonica*, *daisen*, *tanaka-ryoi*, *intermedia*, *E. ikaoensis*, *Acomatacarus* sp. の順である。

この成績では、愛媛県の大部分と、高知県東部の調査が欠けているが、四国における恙虫病の媒介者として疑わしいトサツガムシ *Trombicula tosa* の分布を相当はつきりさせることができた。すなわち、本種の分布地は、高知県西南部の足摺岬を中心とした東西の地区と、鳴門海峡をはさんで四国東部の、北は香川県大川郡津田町から、南は徳島県板野郡松茂村に至る地域と、兵庫県淡路島南部の福良町及び東部海岸の由良町、佐野町であり、いずれも海岸地帯であることが共通の特徴である。淡路島の恙虫の種類は、今日まで 3 属に 12 種で、香川県と全く同じであり、特有の種類は証明していない。そのほかに、地理的分布に特徴のあるのはアルプスタマツツガムシ *Euschöngastia alpina* で、現在まで、淡路島一帯と、四国山脈の北側の香川県一円から見出しており、四国山脈南側からは、全く証明していない。

また、徳島県下の一定地域 2 カ所で、丸 2 カ年間にわたり、各種恙虫の季節的消長を観察し、*kitasatoi*, *fuji*, *pallida*, *tosa*, *kochiensis*, *kuroshio*, *ichikawai*, *murotoensis*, *miyajimai*, *mitamurai*, *japonica*, *G. saduski* の 12 種について、ほどその地表への出現状況を明らかにすることができた。以上の結果から、今後の研究に大きな手がかりを加えるとともに、四国東部及び淡路島の恙虫相の大部を明らかにした。

(徳島大学・病理学教室)